▶今月の表紙◀
angler：杉山達也
photo＆layout：本誌・里

へら鮒 12月号

Dec.2007 No.504
http://www.herabuna.cc/

特集Ⅰ splasher杉山達也、ついに辿り着いた「頂点」。
12 シマノジャパンカップ2007

特集Ⅱ 生井澤 聡が、「地域密着都市型河川」をとことん楽しむ!
24 身近な釣り場で遊ぶ。

32 石井旭舟 へらぶな浪漫街道
《第五十九回》埼玉県・久喜菖蒲公園 昭和池

38 小池忠教 激釣の急所
《最終回》今シーズンを振り返って

45 中澤 岳 フィールド真っ向勝負
《最終回》日曜日を切り裂く超浅場の底釣りin真嶋園

50 斉藤心也 炎のチョーチン12番対決!!
《最終回》vs杉山俊弘 in 筑波白水湖

58,82 早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」
《第5回》秋の三島湖、ラストスパートの両ダンゴ

★AREA REPORT
61,66 群馬の水郷（群馬県） 本誌・伊藤洋一
62,68 河北潟（石川県） 山本一朗
63,69 西美濃大池（岐阜県） 後藤 誠
64,70,71 隠れ谷池（和歌山県）,花園池&立岡池（熊本県） 前田誠志,河口正伸

134 フォーカス懇親釣り大会 隠れ谷池

137 2007がまかつへらぶなチーム対抗戦 東日本大会 清遊湖

140 マルキュークラブ対抗へら鮒釣り選手権大会 決勝 三名湖

142 田辺哲男 MYへら道
《へら道その十》スゴイスゴイと言われている、一碧湖のへらを釣ってみたい!

146 稲毛利夫 崖っぷち釣行!
《最終回》グッバイ、稲毛師匠! カンパ沼・江南FC跡池・敷谷沼（埼玉県）

150 吉川ひとみのあっち こっち そっち♡ 激闘編
《最終回》ひとピー、熊の池で最後の大暴れ!?

154 NEO-HERA Pro League 2007 最終戦【椎の木湖】

158 緊急特別企画 岡田 清「パワー・Xとは何だ!?」 谷養魚場

194 棚網 久の我流
《最終回》「秋イベントが始まった!!」 津久井湖（神奈川県）
＆サンラインカップへらIN鬼怒川大自然

200 北川穂積 西の交友録
《第二十三回》ゲスト:篠倉義樹 釣り場:杉谷池（岡山県）

202 VARIVAS・GRUN CUP へらOVER40 TOURNAMENT 野田幸手園

204 上州屋＆VARIVASペアへら鮒釣り大会 椎の木湖

205 釣り味
《第11回》中華 酒家 かすみの【モンゴウイカの黒胡椒風味炒め＆クリーミー担担麺】

206 釣果予想クイズ

208 フィッシングレディ
《今月のレディ》加藤麻希さん 野田幸手園

75 へら鮒釣り 超基本講座
《第33回》新べら釣り

86 ガチンコ道場
《第25回》馬肥ゆる秋。ガチンコメンバー快進撃!!

92 都祭義晃 カリスマ伝説2007
《最終回》さらば トマ、めざせ カリスマ

99 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
《Vol.66》連鎖。

106 夢追釣人（ゆめおうもの） 天野正由
最終回・それでも夢を追い続ける 精進湖＆田貫湖

109 櫻井釣漁具㈱創業120周年「釣竿造り一筋」出版記念
及び全日本レオード会創立30周年記念

110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「沸尿地獄」

113 全放協・日研 放流予定表

114 最狂へラ戦士養成所"鮒の穴" 漢（オトコ）タカハシ
《第五十八話》25年振りの再訪。タカハシ40歳の秋

119 へら鮒を三枚に下ろす 西田美明
《最終回》「気で釣る。心で釣る。魂も!」

124 水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト
《第12回》たかが1枚、されど1枚

126 野田幸手園新聞

161 ワクワク管理釣り場情報

170 小売店情報

★へら鮒BOX
175 里ちゃんの新米編集長雑記
176 情報発信基地
179 ボイス
186 友部湯崎湖 18周年謝恩大会／FA吉羽園 秋の鬼武者大会
187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『上村流!』 上村恭生
189 コラム『紀州"想いの竹"のものがたり』 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

※岡田 清【Deep Side Angle】、杉山達也【SUPER SPLASH!】、戸張 誠【関へら戦記2007】は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

釣り場割引クーポン券

p.163～

野田幸手園 椎の木湖
清遊湖 谷和原大沼
上尾園 F.A吉羽園
谷養魚場 将監
柳生FP 筑波白水湖
泉堰 逆井HC
友部湯崎湖 三和新池
川越FC
鳥羽井沼 大上へら池
霧の沼 小川つり堀園
清川つくしFC
千代田湖・舟宿 千和
相模湖・釣舟 五宝亭
相模湖・釣舟 天狗岩
吉森HC
甲南へらの池 当麻池
水藻FC 朝日池
釣り堀八十八
精進湖・釣舟 金風荘
西湖・釣舟 白根
西湖・釣舟 丸美
西湖・釣舟 青木ヶ原
府中HC

STAFF
●発行人
根本百合子
●編集長
田中里史
●編集部
大場勝良
諸冨一秋
伊藤小百合
伊藤洋一
●へら鮒NET
根本大作
八十田昌広
●企画
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆のトーナメンター、復活への道。

〈Vol.66〉

連鎖。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka

業界初、Web連動企画！ ウェブ版『ハーフ』 〈URL〉http://heoar.yokohamatsurumi.net

「がまペア」で役員を務めていた上村恭生さんとツーショット…のミーハーえなり。本文の内容とは一切関係御座いませんのであしからず…

Photo by Mitsuyoshi Kaga

がまかつチーム対抗戦東日本大会も惨敗し、今シーズンのトーナメント日程を終了したアニキ。ほんでもって、今月号の原稿は…。まあとにかく読んで下さいまし！

by里ちん

再会。

住まいが同じ区内であり、今までばったり会わないのが不思議なくらいだった富永 勲氏と、先日初めて路上でお会いした。

帰宅して横浜市のホームページを見てみると、鶴見区民だけで27万人もいることが判明。偶然の可能性が極めて低かったことに納得した。

以前さんざんお世話になった氏の愛車「流星号」は、当然ながら代がわりしていたが、へら師らしい匂いをプンプンさせていたそのナンバーで、僕はすぐにピンと来た。

最近の読者は知らない人がいるかもしれないので紹介しておくと、富永 勲氏は、本誌で何度も連載を持ったことのあるスーパースター級の人物。僕の過去の記事の中にも、お名前を出させていただいたことがある。たしか、「僕のゴールデンクラブ月例会初優勝を阻止したのが、富永氏のペレットを用いた底釣り」、と書いた（僕は氏に何度も阻止されているのだ）。そしてそれは、「今で言うペレ底は、富永氏に限らず、大昔からある釣りですよ。流行は繰り返しますよ」という流れの中での記述だったはずだが、いま振り返ってみるとこの記述では、証拠としての実名を挙げるのに、別に富永氏でなくても誰でもいいようにとられてしまった感がある。しかしそれは僕の筆の未熟さであり、氏に対してたいへんな失礼となってしまったことを、この場を借りてお詫びしておきたい。

氏はいわゆるダンゴマンであったが、セットをバカにするような人ではなく、後に月例会10回優勝最短記録を塗り替えることとなる「伝説のセッター大竹」時代の到来も素直に受け入れていたように見えた。

カッツケ大好きな氏のダンゴの爆発力は、1日で200枚～300枚勝負という今では考えられないような超・打撃戦が珍しくない時代に、体力ある若手にひけをとらないどころか、ぶっちぎり優勝を飾ることも珍しくないくらい、それはそれは凄まじいものだった。そんな氏が、満を持して放つ底釣り。そして、「やっぱりお約束」の「鬼決まり」。満足にタナとりも出来なかった僕にとってどれほどの脅威であったかが、ご想像いただけると思う。

昔は、どこの釣り場もダンゴを打てば、フル満員でも水面に湧きき上がるほどの寄りを見せていた。誤解を恐れずに書けば、エサが持っていれば釣れた時代であった。ところが、今の釣り人の多くがあたりまえのように知っている「ピンポン」も、すでにメディアにとりあげられてはいたが、当時はまだ浸透がイマイチで、「練っても重くしても何してもウキが立たない」というボヤキがあちらこちらから聞こえてきたものだ。

深宙両ダンゴでは超・大ボソを打ってはじめてウキが立つような時代。今で言う「ホールド解除」だが、そんなことは知らない釣り人が多かったのである。そんな時代に、練り切ったバラケ性に乏しいペレットダンゴで地合を構築してしまう氏の底釣りが、当時の僕にはどうしても理解出来なかった。ペレットを用いた釣りに関しては、今でこそ伊藤編集員に紹介された、「ペレットの重さでタナに残る（舞い上がる）粒子が少なく、毎投が打ちはじめのクリーンな状態」という理論があり、へらの嗜好の問題としてのみ語られがちなペレットの釣りに、新たな視点が提供されたことは記憶に新しい。が、それにしても、当時の魚影の濃さでは重ければ釣れたとは素直に思えないほどに、僕自身の「見よう見まね底釣り」が打ちのめされた記憶は多い。「重くてバラけにくい小エサで丁寧に釣っていけ」というセオリーは当時から入門書に載ってはいたが、オモリ三つだろうが四つだろうが、一歩間違えればウキが寝てしまった時代だったのだ…。余談だが、以前早川浩雄氏に、「サバがトメるオモリの号数から考えれば、へらのアオリなんか大したことはない」というコメントをいただいたことがある。魚の力は釣り手側の想像以上だ。自然は計り知れない。

富永氏の底釣りというと、見事なイレパクという記憶しかないのだが、逆に考えると空振りが許されないギリギリの地合だったと捉えることも出来るわけで、当時の氏がいかに丁寧な釣りをしていたかという証拠でもある。

…思い出しついでにもう少し脱線してみる。そんな時代のスターエサは、ダンゴではなくトロコンだった。粉ボケする酸欠地合においては僕もトロコンを使ったが、高活性時にはなるべくダンゴでやりたい派の僕は、ハリスワークに賭けた。「深くなればなるほど大ボソのダンゴ」ではなく、どのタナも同じエサで攻めたいという気持ちが強くあった僕は、超短バリスの釣りへと傾倒していく。あえて言うならば、どちらも同じような要素だが、寄せない方向ではなく追わせない方向であった。

集魚性に乏しく、繊維の助けで吸い込みのいいトロコンは、いつまでも寄り始めの状態をキープしやすく、かつカラツンが少ないエサとしてもてはやされた。大型化が進んでへらの絶対数が減ると、多くのトロコン使いはあっさり手を引いたが、一般的な前記の理由より、「ダンゴより数段軟らかいエサを、芯もきちんと保ったまま、打てる」ことをキモだと捉えていた僕のまわりのトロコンの名手達は、ずっと使い続けていた。ただし全盛期よりはるかにシビアな準備と調整が必要となり、新コブがメインでたまにしかトロコンを打たない「なんちゃって」な僕の手に負えるような代物ではなかった。

例会回帰。

「とみながさ～ん！！」

僕のマヌケな声に気付いた氏は車を停め、目の前の自販機でコーヒーをご馳走してくれた。その場で僕達は、30分位喋っただろうか。

「江成君、釣りやってんのかい？」

懐かしい、変わらぬ優しい声だった。

平日例会のゴールデンクラブも北斗へら鮒会（日研北斗支部）も、会員がすっかり減ってしまったと嘆く富永氏。若い人はほとんどいなくなり、先日の日研トーナメントも全員がオーバー60であった、と…。

多様な働き方がある現在、平日例会を開催するクラブにもそれなりの需要がある筈なのだが、もともと人口の少ないへら釣りだけに、現実は厳しいのかもしれない。関東へら鮒釣研究会や、浅草へら鮒会と並んで御三家と称され、輝かしい歴史を刻んだ北斗へら鮒会と、その姉妹会であるゴールデンクラブ。かたや野釣り専門、かたやハコ専門と、「両会を制する者はへら釣りを制す」みたいな、今思えば傲慢な印象を勝手に持ち続けていた。もちろん両会を制することなど僕には到底叶わぬ夢だったわけだが、熱烈な信者会員だった僕は完全に酔っており、所属しているだけで十分満足出来るほどに、ステータス性を感じてしまっていた。「虎の威を借る」とはよく言ったもので、まさに当時の僕もそうだったが、実際にそれだけのスーパースターは揃っていた。ただ、大先輩方の多くは控え目な紳士で、メディアでのアピールが他会より少ない気が当時からしており、生意気だがそれが僕には歯がゆかった。

「大竹君や江成君がいた頃が最後だったね…」

どう反応してよいのか難しい微妙なお言葉をいただいてしまったが、ふと頭をよぎったことは、夢中だった自分に、はたして「今よりは、業界が盛り上がって」いたと判断出来るのか、ということだ。

たしかに所属していたクラブの会員数や、近所の釣り堀の数というのはバロメーターのひとつには違いない。しかし、当事者だった僕に全体が見通せるわけがないのだ。自分のことに精一杯で、明確なゴールも何もないのに「行けるとこまで行ってやれ」という、無茶苦茶な成り上がり精神だけで突っ走っていた僕。もしかすると、当時から「十分に盛り下がって」いた可能性は否定出来ない。

「会はどっか入ってんの？」

「うーん、何と言ったらいいか…どこにも入ってはいないってことになるのかなぁ」

「平日も休みあるんでしょ？」

「まぁそうですね。例会の楽しさっていうのはここ数年恋しくなってるんですよ。一時はどうせ皆勤出来っこないからつまんないと感じてたんですけど、トーナメント一発勝負だけじゃ今の僕には夢があまりにも無くて（笑）」

「じゃあちょうどいいじゃない、また来たら？会長も喜ぶよ」

「いえ、実はですね、昨年から仲間内で新しくクラブというか何というか、ちょっとしたサークルみたいなものを作ってましてね、いままでは不定期の集まりだったんですけど、来年の正月から本格的に例会を開催することにしたんですよ。第一日曜日なんですけど…」

「ふ～ん。やっぱり日曜日だよね、普通の人は…。でも、日曜なら岡ちゃんとこ（ダイワインストラクター岡崎一誠氏率いるサンデーマスターズのこと）の会もそうだよ。入れてもらえば良かったじゃない？」

「あ～、僕も以前入ってたんですよ（笑）。忘れちゃいました？　ただ、せっかく集まった仲間どうしで例会日を決めましたし、ノコノ

コ古巣に戻るのもどうかなって思いますしね」
「そうかぁ…。ところで江成君いくつになった?」
「あと三年で40になります」
「…ちょんまげの江成君がねぇ…オレも歳とるわけだネ。もう64だもの（笑）」

新生・ナリーズ。

『仲間内で新しくクラブというか何というか、ちょっとしたサークルみたいなものを…』

読者の方々なら今までの経緯が分かるので、説明自体が不要だが、全く何も知らない人達に、「ナリーズって何なの?」を説明することが、僕自身、いままで非常に難しかった。これは他の会員にとっては尚更のことで、一般の釣り人から聞かれる度に、みな苦慮していたという。

もともとはクラブ対抗に出るための既成事実を作りたいという思惑もあって、カタチとしては例会形式をとるが、「ナリーズは、別に競技会でも何でもなく、コミュニティである」と書いたと思う。僕自身が皆勤するのも難しいという逃げ含みでもあった。そして、そのコミュニティでの大原則は、「理論なくして釣果なし」と、表現はいろいろと変遷があったものの「一位もビリもタダの人」の、二つであると僕は勝手に定義した。そうは言っても複数の人間が集まって「会」となった以上、もはや僕一人のものではなく、一定のルールに基づいて運営されなければ、健全な組織とは言えない。そんな経緯から、一応は決めていた例会日。しかし、

「かつぎ出したのは我々です。事実上、江成ファンクラブなんですから、会長不在ではやはり意味がないんです。不定期開催もやむを得ません」

という一部の会員の言葉にどっぷりと甘え、例会日もすぐに反古にしてしまった。

きちんとした例会も行わず、たまに派手に人を集めては生意気な口を聞く僕に、イベント屋だとか、ただのミーハー野郎だとか、口先ばかりだとか、とにかく批判のメールを送って下さる方は多い。「有名人も多数集めておきながら、一般の方が主役とは何だ」というメールも多く、「有名人が侮辱されて怒っている」系（まさかの本人からか、ファンからかは不明）と、「有名人の知り合いがこんなにいるんだ自慢はやめろ」系とに大別され、後者はミーハー野郎クレームと同じだ。

ここでまずお断りさせていただきたいというか、確認させていただきたいことは、

「江成はミーハーです♡」

…と、過去に何度も公言してきていること。スーパースターの知り合いがいて嬉しいという気持ちは、ゴールデン・北斗時代から何も変わることはなく、事実である。ただし、それはあくまでも自己満足。

ところが不特定多数の目に触れる記事の中に実名入りで書いてしまった場合、自己満足の範疇を超え、他人に対する自慢ととられてしまっても仕方ないという認識も僕にはあったが、記事のリアリティを追求した結果、ここまで来てしまったのだと理解していただけると嬉しい。

もちろん過去二回のナリーズ杯でも、一般参加者を大勢集めてわざわざ交遊録自慢しようなどという気持ちはなかった。普通なら同じ土俵で勝負することが難しい有名人達と、一般参加の方々が入り混じって楽しめるカタチを模索した結果が、二回のナリーズ杯になっただけという認識だった。しかし、そう見てはいただけなかった人もいるという現実は、たいへん反省すべき点だと考えている。それでもどうしても譲れないのは、

「江成個人はミーハーであっても、ナリーズはミーハーではない」

ということである。「そんなの信じられない」と、思う人がいると思う。「江成どころか平山（幹事長）だって、ミーハーそのものじゃねぇか」と感じる人もいる筈だ。平山氏が純粋な向上心から複数の名手に教えを乞うてきた事実は、この業界に根付く既成の価値観から大きく外れた道と映ってきたかもしれない。しかしどんなに八方美人と言われようと、「俺は客だ。文句あるか!」というスタンスで全て笑い飛ばしてきた氏は、相手が自分をどう評価しているかなど全く気にせずに、氏の人脈（というより、この場合はアドレス帳と言った方が正しいか）を片っ端からあたった。それはなぜだったのか。

「ニュートラルな立場でモノを言う」というスタンスは、実はピンでなら簡単だ。「俺はニュートラルだ。文句あっか?」と宣言してしまえば、傍からどう思われようが、ポーズだけは取れるという意味だ。ところがイベントを催すとなると話は別で、各方面の隅々まで声をかけ、釣り場に来ていただいて、初めて「ニュートラルなイベント」となる。これが、恥も外聞も捨て、有名人集めに奔走した平山氏の大義であった。大会準備には全く関与しなかった僕もその熱意には大いに心を打たれ、氏のアドレス帳にない有名人のうち、僕の友人でもある数名には連絡のお手伝いをさせてもらった。

大会終了後、こんな意見が出た。

「各方面の隅々まで声をかけ」ることが、結局は各方面の隅々にまで「気を遣った」ことになり、裏?では史上最強（こわいもの知らず）の素人集団を標榜するナリーズとしては如何なものか、と。さらには、完全に「各方面を網羅出来なかった」という現実が、一部の参加者の目には「片寄り」と映り、「なんだ

新作!!
慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場!
【底釣りスタイル】
杉山作
繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
●ボディは羽根2枚合わせ5.5㎜径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
●ダイシン製ホワイトトップ（内径1㎜パイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP!
●サイズ：一番（T10㎝ B9㎝ カーボン足4.3㎝）～六番（T17.5㎝ B16.5㎝ カーボン足4.7㎝）
ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
●定価1本7,350円（税込）
取り扱い店〈五十音順〉
埼玉・越谷 かわせみ（☎048・969・5067）　茨城・下妻 こやの釣具（☎0296・44・1619）　東京・渋谷 サンスイ川釣り館（☎03・3499・5025）
埼玉・入間 へらの三水（☎042・964・2093）　栃木・益子 フィッシングハウスほその（☎0285・72・2215）　神奈川・川崎 鮒仙人（☎044・287・7470）
東京・吉祥寺 丸勝（☎0422・22・8923）　東京・青梅 吉川釣具店（☎0428・22・2467）

かんだ言いながらも、結局は誰かの顔色を窺い、ビクビクしていたんじゃないか」ということになってしまう、とも。

つまり、そんなものなら既存の仕組みの中でも出来た事だということ。参加していただいた多くの方々が言ってくれた「楽しかった」は、なるべくなら素直に受け止めたいが、とりあえずは成功したと評されている「らしい」ナリーズ杯の裏で、メンバーはこれだけの苦悩を抱えていたのだ。が、有名人を呼ぶ・呼ばない、呼べた・来てもらえなかったという話は、結果的に平山氏への個人攻撃という構図になってしまう。しかし、あまり深く考えず、「一般参加の人たちも喜ぶんじゃないかな?」と、ゴーサインを出したのは会長である僕だ。

何処へ向かおうとしているのか。どういうカタチに収めようとしているのか。僕自身、全く見えないままナリーズは走り出してしまった。もちろん今なお全く見えていない。

「何かを変えなければならない」という意識はメンバー共通のものでも、そのスピードに対して温度差があるのは、それぞれの立場というものがある以上、当然だ。

失うものがあるかないか。失って困るか困らないか。価値観も人それぞれ。参加してみたはいいが、想像以上の急展開に戸惑っているメンバーがいるとしたら、それはとても不幸なことだ。ナリーズがなくなってしまっても、ナリーまではなくならないのだから、心配無用なのに。

読者の中に、釣り場で第三回ナリーズ杯のポスターを見かけた方はいるだろうか。

メジャートーナメントのポスターではなく、イチクラブが主催した大会のポスターでありながら、アレ。平山氏作成のそれには、ロクに釣果の上がらない僕がドーンと写っている。顔から火が出るほど恥ずかしいが、この前代未聞のノリこそ平山イズムだ。まさに、「素人」にしか出来ない「やり過ぎ」である。

話好きで、酔えば相手構わず徹底討論し、釣行回数と人脈の広さから知り得た業界の裏話も惜し気なくぶちまける氏が、危険人物だと映る人は物凄く多い筈だ。それはある意味、誤解ではない。しかし、業界に限りなく近いところをウロついていたとしても、氏はあくまでも素人なのだ。

氏にとって、もう少しTPOを考慮するのは今後の課題かもしれないが、素人に目くじらを立てる業界人も大人気ないような気がするし、「ツッコマレテ困ることがあるんですか?」という話にもなる。

たとえ「担ぎ出された」としても、僕には自ら乗った責任がある。笑われようが馬鹿にされようが構わない。暴走機関車と心中する腹は決まった。もちろん他のメンバーはいつでも途中下車出来るので、興味のある方は安心して乗車されたい。

来年の1月以降、毎月第1日曜日に例会を開催します。

これで「ナリーズって何?」に対しては、スパッとひとこと「釣りのクラブ」と答えることが可能になりますが、どうせ競うならそこそこの人数がいた方が面白いので、新規会員を募ります。詳細は次号にて!

(第三回ナリーズ杯は予定通り開催しますので、こちらもヨロシク!)

ドロンズ。

読者の皆さんにお詫びしなければならない事態が起きた。さんざん告知してきた椎の木湖主催「フレンドシップ選手権大会」の参加メンバーが、大幅に入れ替わってしまったのだ。スーパースターのBチームは完全に消滅した。

とりまとめていた平山氏からの電話の第一声で、氏が相当にまいっているのはすぐに分かった。周囲の雑音を全て笑い飛ばしてきた氏の、あんなに暗い声は聞いたことがなかった。

「江成君、申し訳ない。ドリームチームはなかったことにしてくれないかな…。実は急な仕事っていうことで一人欠けちゃってね。その時点では何とか見合う人をと思って必死に手を尽くしたんだけどさ、なかなかいい返事がもらえなくってね…。そうこうしているうちに二人目三人目のキャンセルが出ちゃってさ…。もうどうにもならないと思って、残ったメンバーには事情を説明して辞退してもらったんだよ…。始めから終わりまで勝手なことばかりして本当に申し訳ない! 全部自分の責任だから。椎の木湖さんには俺からきっちり詫び入れるから。さんざん告知させておいて最後はコレだからね、また口先だけだって言われちゃうね…」

「まぁ仕方ないですよ。みんな色々忙しいですからね。仕事優先です」

「そう言ってもらえると助かるけど、自分に原因があるんじゃないかって気がしてね。強引にお願いしてた部分もあるから…」

「いやいや、かなり先の約束だったわけだから、こういう事態は有り得るなって思ってましたし。実際僕なんかも、全てを投げ捨てて釣り

営業時間 (10月〜3月) 平日 午前7時〜午後4時 日・祝日 午前6時30分〜午後4時
(4月〜9月) 平日 午前6時30分〜午後4時30分 日・祝日 午前6時〜午後4時30分
定休日 毎週火曜日(祭日の場合 翌日休業)※第4火曜日と水曜日は連休
料金 1日/2,500円 半日/2,000円
規定 自由釣り池(2面)は、タナはウキ止めからオモリまで1m以上 使用竿 竿8〜15尺 水深 3.5m
※ジャンボ室内鯉つり、金魚つりも楽しめます。
赤いリボン賞 2,500円
有限会社 つり堀 中の島センター
埼玉県川口市藤兵衛新田254 ☎048-295-5194(夜間296-7654)
武蔵野線 東川口駅 中の島センター 戸塚環境整備センター 陸橋 オリンピック 赤山街道 R4バイパス 清門町 新栄団地 R122 東京 鳩ケ谷 パチンコ GS

に没頭したいっていう思いが、釣りしてると常々よぎりますけど、みんなそういうのを断ち切って現実と向かい合ってるんじゃないですかね。僕の場合、釣りの翌日は、釣れても釣れなくても、ものすごくブルーですよ?」

「いや、たしかに超一流のトーナメンターと言えど、釣りでメシ食ってるワケじゃないんだし、仕事だって言われればそれ以上何も言えないんだけど…。俺の日頃の行いからね、アイツの頼みは聞かないぜって思っちゃったとかさ、はたまたアイツと付き合うんじゃねえよみたいな圧力がかかったとかさ、ナリーズとして出るわけにはいかないとかさ、そういうことを反省してるわけよ…」

「平山さん、それは考え過ぎ。それこそ何様だって言われちゃいますよ(笑)。平山さんにもそうですし、ナリーズにもそうですが、こんなちっぽけな集まりに現段階でそんな圧力をかける必要はありませんし、かけられる云われもありません。確かに平山さんが暴走した部分もあったのかもしれませんが、かといって平山さんを攻撃してもしょうがない話であって…。攻撃するなら僕に来いって話ですよ。それに、フレンドシップの欠席者のみなさんのことは、勝手に深読みしないで素直に額面通り『急な仕事』ってことで受け止めましょうよ」

「江成君…。本気で言ってくれてるの?」

「本気ですよ?」

「江成君って、バカなんだね(笑)。それじゃ、話を元に戻すけど、緊急で助っ人を探した段階でね、出てもいいって言ってくれてた人もいるんだよ。でもどっちにしても頭数が足りないと思ってたから、そこで話はストップしてるんだけど、もう少し声かけて組み換えて全3チーム出られるよう調整してみるね。…あ、でも江成君、さすがに今からだとナリーズっていう名前はマズいかもね。何にも知らないのに来てもらうんだからさ、何か別の名前考えないとね」

「じゃ、ドロンズで。やっぱりカタカナがいいですよね。当初のメンバーのドタキャンにより急遽結成されたチームにはもってこいでしょ?」

「そ、それじゃキャンセルしたメンツに思いっきり嫌みじゃねえの…」

「え? ただのギャグですよ。無問題」

「アンタ、ホントに大バカだよ。呆れ返って少し元気出てきたぜ!」

…皆さんゴメンナサイ　by江成公隆…

初恋の歌。

10月初旬に行われた労組の会合後の、「二次会だか三次会だかよく覚えてないけど」の、カラオケ。

他店の組合員が入れた曲は、僕が小学校の卒業式で聞いて耳にこびりついていたアノ曲だった。

他のクラスの合唱で聞いただけなので、歌手名も曲名も分からずにいたその曲は、「再会した女の子に後ろ髪ひかれながらも前を向いて歩き出さねばならない」やせ我慢系で、好きだった女の子とは別の中学に行くこととなってしまった僕とカブりまくりで強烈に胸に響いた。いつかは本物を聞きたいと思っていたが、ついに出会えた瞬間の感動は言葉に表せない。初恋の女の子も勿論そうだし、曲そのものにも恋をしていたような、二人の恋人といっぺんに再会できたような感動。

…って、言葉にしてんじゃん。つーか二人の恋人じゃ修羅場だろってなツッコミはブッとばすぞ! …って、もうすぐ朝だぜ~。

で、で! それからしばらく僕の鼻歌として居座っていたのは言うまでもないが、富永氏と再会したのはまさにサビを歌っていたその時だったのだ。

氏と話をしていると、とにかく懐かしく、あの頃に戻りたいという感情が湧いて来たのも事実。でも、でも、どうにも遡れない時間の流れが目の前にあるのだ。

古巣に戻るのではなく、新しい旅に出なければ、僕の進歩はない。そのことを諭すため、アノ曲は戻ってきたのではないか…。

そう、卒業。これからは新しいクラブで頑張るのだ。

ちなみに今の脳内BGMは、ゴダイゴの銀河鉄道999。って、この項全部ギャグですか!?(よっしゃ脱稿~! 今月も滑り込みセーフ!)

とりあえず明日のフレンドシップは頑張るぜい!

追伸:がまペア、あえなく一回戦落ちでした。でも、あの今成雄二氏と再会し、携帯番号ゲットォ♡ やっぱりミーハーなエナリでした。チャンチャン。

※朝焼けの里ちん註:アニキ、あと二行、足りないやないけぇ~!(怒)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

・仕上がりは黒一色です
・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1.ぐりへら鮒会
2.ぐりへら鮒会
3.ぐりへら鮒会

・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店:柴　舟　03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

・8書体、8色を御用意しています
・角印も作れます

取扱店:
柴舟(東京都江戸川区)
03-3613-2727
佐伯釣具店(神奈川県川崎市)
044-911-3722
SANSUI川づり館(東京都渋谷区)
03-3499-5025
フィッシング中原(神奈川県川崎市)
044-711-8266
鮒仙人(神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

No.504
Dec.2007
12

平成19年12月1日発行（毎月1回1日発行）　第42巻 第12号　昭和41年5月4日第三種郵便物認可

最後まで、諦めない。

特集Ⅰ splasher杉山達也、ついに辿り着いた「頂点」。

シマノジャパンカップ2007

特集Ⅱ 生井澤 聡が、「地域密着都市型河川」をとことん楽しむ！

身近な釣り場で遊ぶ。

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第42巻第12号（毎月1回1日発行）
平成9年2月1日発行

つれるエサづくり一筋
マルキュー

タフな奴、新登場。

強いネバリと、抜群のハリ持ちを実現。ハリ抜けしにくい、タピオカウドンの素。

ネバリが強く、ハリ持ちが抜群のタピオカウドンが作れます。強くアワセてもハリに残り、テンポのよい手返しで釣っていけます。経時変化が少なく、ダレにくいため、前日に作っても、釣行日の最後まで使えます。鍋で炊いても、電子レンジで加熱しても作れます。

●**魚信**（あたり）　25g×4

マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ　本社・桶川工場：048-728-0909　大阪支店：072-824-0909
四国営業所：0877-44-0909　九州営業所：0942-82-0909
ホームページアドレス　http://www.marukyu.com/

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
http://www.marukyu.com/i

釣れるヒント満載!!
へら鮒天国

マルキューホームページ内の「へら鮒天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
http://www.marukyu.com/　マルキューへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。

定価　一000円　本体九五二円

雑誌　07907－12

4910079071275
00952